

山火事から郷土を守る

消防団員が懸命の活動



過去の山火事の実験で、水が無ければ山火事は消えないとの認識から、暗闇の中、重さ約100kgある小型動力ポンプやホースなどの資器材を、火災が迫る世田山頂上に中継する消防団員の皆さん。

[写真提供：愛媛新聞社]

8月24日・17時10分ごろ、今治市朝倉上の笠松山（標高357㍎）中腹から発生した山林火災が延焼拡大し、今治市内の山林約107㍎を焼失しました。

火災が西条市との境界に迫ったことから、市では8月25日・16時30分に山林火災対策本部を設置し、市消防職員42名・市職員25名・消防団員384名を召集するとともに、消防防災ヘリコプターの出動および自衛隊の災害派遣を要請しました。

市境の世田山（標高339㍎）まで迫った火災を防ぐため、現地山林火災対策指揮本部の指揮により、世田山のふもとにある世田薬師駐車場東側の池から頂上まで、ポンプ車・小型動力ポンプなど20台とホース88本を延長して中継送水の準備を行いました。夜間で危険が伴う中、消防団員の皆さんは、強力ライトの明かりを頼りに重い資器材を担いで約1400㍎の山道を登り、中継送水の準備が完了後、夜通しの警戒に当たりました。

翌26日未明には、市境まで20㍎付近に迫った火の手を放水で食い止めることに成功し、西条市への延焼を防ぐことができました。



西条市消防団長
藤田 修さん

消防団が消火活動を行うことは当然のことですが、夜間の困難な活動にもかかわらず1名の負傷者も出さず見事に延焼を食い止めたことは日頃からの訓練の成果であると団員の皆様に感謝しております。

今後も西条市消防団は、西条市・消防本部と一丸となり、自らの町は自らが守るという熱い気持ちを持って、市民の皆様の「安全・安心」を守っていくよう努力してまいります。

この度の山林火災に出動されました消防団員の皆様には、昼夜を問わず消火活動にご尽力いただき、心から敬意を表しますとともに深く感謝を申し上げます。

今治市朝倉上の笠松山中腹から発生した山林火災は、8月25日夕方から市境である世田山頂上に延焼する勢いで火の手が迫ってまいりましたが、西条市消防団384名が重さ約100㍎もある小型動力ポンプなど20台と消防ホース88本を頂上まで中継して消火活動を行い、延焼を食い止めていただきました。

このことは、日ごろからたゆまぬ努力の積み重ねにより、消防体制、消防戦術など西条市消防団が高い水準を有していること、すなわち西条市の「消防力」を証明するものであり、市民が安心し、安全に生活を送ることができるようになってまいります。

市では、いつ発生するか分からない地震・火災・風水害などの災害発生時に地域防災の要となる消防団の充実強化を図ることを目的として、消防団協力事業所制度の早期実施および自衛消防組織との協力体制の強化、ならびに消防団に必要な装備の充実確保に全力で取り組んでまいります。

団員の皆様におかれましては、市民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層のご尽力とご協力をお願いいたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。

西条市長 伊藤宏太郎